

平成20年度 第3回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会

日時 : 平成21年3月4日(水) 午後1時30分～午後3時40分

場所 : 林業会館 第1研修室

出席委員 : 福島正昭・神保久美子・勝亦祐貴・志水香苗・渡邊恵子・

芹澤敏弘・近藤八重子・沓間捷・牛山久仁彦・岩田和博・芹澤知輝・

伊倉富一・勝又正美・山本育実・杉山泰芳・山崎和夫・沓間信幸・

杉山賢吾

東部パレット(御殿場市民活動支援センター) : 野村事務局長・勝亦恵美子

事務局 : 内田課長・瀬戸補佐・勝又主幹・勝又主事

1 会長挨拶

今日は委員の皆さんとディスカッションを予定している。協働について思う存分協議してもらいたい。

NPO法が施行されて10年が経過した。色々な課題はあると思うが、市内のNPOも順調に育ってきていると思う。平成20年10月に交流センターもオープンして、福祉施設の中にある市民活動室で、ボランティアと一緒に活動することで模範となるような市民活動室にしてもらいたい。

2月25日のNPOフォーラムに参加した。市民活動を推進するためにNPOの財源確保のための基金などが課題となる。

平成21年度補助金事業の募集についても議題にある。新年度につながるような議論をお願いしたい。

(1)平成21年度市民協働型まちづくり事業補助金事業提案募集・審査について

資料により事務局から説明

①説明要旨

- ・市民協働型まちづくり事業補助金目的
- ・補助金募集説明会・審査の日程
- ・事業対象となる経費・期間
- ・補助金の応募方法・受付期間
- ・補助金審査・選考方法の確認等

渡邊 : 補助金事業募集の広報はどのようにしていくのか。

事務局 : 地域振興課で把握している各団体等への通知、広報ごてんばや同

報無線等で周知します。

岩田：ホームページ等でも掲載するなど工夫してほしい。

事務局：計画します。

会長：現状はどの程度相談があるか。

事務局：新規事業1件、継続が2件あります。

会長：行政提案の募集についてと、補助金の予算はどのようなになっているか。

事務局：行政提案については、補助金事業とあわせて募集する。予算は前年並となっています。

(2)御殿場市民活動支援センターとの連携について

- ・資料によりNPO法人東部パレット野村事務局長から、現在までの市民活動室利用状況についての説明
- ・御殿場市民活動支援センタースタッフ勝亦から、「ごてんば市民活動室だより」と今後の事業についての説明

会長：運営経験のある東部パレットに委託してよかった。支援センターのスタッフが育ってきている。今後も団体同士の連携など支援して行ってほしい。また、ボランティア連絡協議会の方々は市民活動としては大先輩なので協力してほしい。

近藤：市民活動室のレイアウトを一緒に変更し、様々な資料を共有させてもらっている。今後も協力しあって運営していきたい。

資料により事務局から支援センターと協議会との連携について説明

① 説明趣旨

- ・協議会と支援センターの連携と調整について
- ・市民活動に関する広報等について
- ・市民活動の支援事業について

勝亦：支援センターの目的で、市民活動団体だけでなく、「市民及び市民活動団体」としてほしい。

事務局：個人も対象なので追加します。

会長：来年度の市民活動見本市を支援センター中心に実施することも検討中である。事務局の方で具体的な案が決まったら、後日報告してほしい。

(3)今後の協働施策について

牛山教授より説明

① 説明趣旨

- ・ 基金の設立（市民活動団体財源的支援制度）について
- ・ 中間支援のNPOについて

御殿場市は非常に熱心に協働に取り組んでいるが、事業提案は少なくなってしまうのではないかと。今後は協働に理解を深めることや、提案して落ちた団体へのフォローをする仕組みが必要。

支援センターを条例・要綱でルール化していくこと、いくとも必要なのではないかと。

- ・ 協働事業の事業化について

補助金事業を実施した団体の次なるステップに進むための仕組みが必要。

牛山：協働について感じていることと、中間支援NPO的な存在について委員の皆さんに意見を述べてもらいたい。

会長：市民意識調査についての結果を見て、「市民活動に興味がある」が大多数を占め、特に「地域活動」に関することに興味がある人が多かった。

事務局：自治会活動を含めた、市民活動への参加意識は高いという結果だったが、一方で「活動のきっかけがない」という意見が多くあった。また、協働について知っている人と答えた人が少なかった。

会長：活動のきっかけづくりとして、中間支援組織が主要になる。その点について東部パレットではどのように考えているか。

野村：御殿場市は地域の組織（自治体等）に力があると思う。行政との繋がりを支援するのも大事だが、その地域の組織と協働していくのも良いのではないかと。支援センターの関わり方も課題となっている。

沓間捷：もっと区や区長を利用すべきである。区を利用することで市民活動が広がると思う。

沓間信：現在、神山有志の会は区や区長にサポートされながら活動している。地区の祭りでは、有志の会が祭りの土台をつくったので、規模も大きくなってきている。今後、規模が大きくなると一つの団体で運営しきれない可能性もあるので、自治会や行政も協力してほしい。

会長：これまでの検討の中に協働は、今までの自治会組織をないがしろにされる心配があるのではと言われてきた。自治会と行政の協働する方法に

について考えていく必要もある。

渡邊：NPO法人になると書類等の提出が大変。そのNPO法人になる前に団体を軌道に乗せるような支援をする組織が必要だと思う。

また、中間支援組織にはこの協議会の委員経験者が入ったサポート組織をつくったらどうか。

会長：協議会が条例化になった。

事務局：資料により協議会の条例設置についての説明

会長：委員の位置づけが条例により高められている。また、近隣の裾野市も市民協働に取り組んでいる。委員一人一人が意識を高めてほしい。

渡邊：区長会にも協働をアピールしてほしい。

沓間捷：区長の市民活動に対する意識を高めるため、区長会もふじざくらで実施してほしい。

会長：中間支援組織には団体情報把握したプロになって地域をこえたコーディネートをしてもらいたい。今後もごてんば型の協働モデルをつくっていききたい。

(4)その他

・平成20年度御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金報告会及び平成21年度御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金募集説明会の日程は平成21年4月25日（土）です。委員の皆さんの出席をお願い致します。